

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

研究タイトル
家族・遺族の精神心理的負担のリスク要因の同定とスクリーニング方法の確立
に関する研究

研究分担者 宮下 光令 東北大学大学院医学系研究科

研究要旨：がん患者の家族にとって死別はうつ病や自殺の重要なリスクことが国際的に明らかになっている。しかし、わが国における遺族の希死念慮を有する割合は十分に明らかになっていない。さらに、対象者を十分に同定できず、サンプルサイズの不足から、リスク要因に関する研究はあまり多くない。そこで、本研究では日本の過去の大規模遺族調査のデータ等进行分析することにより、わが国のがん患者遺族の希死念慮とそのリスク要因について検討した。

A. 研究目的

日本の過去の大規模遺族調査のデータを分析することにより、希死念慮の割合と要因について分析し、ハイリスク群を同定する。さらに、その結果からハイリスク者のアセスメントの方策について検討した。

B. 研究方法

研究分担者(宮下)が実施したがん患者対象の多施設遺族調査(J-HOPE 研究：https://www.hospat.org/practice_substance-top.html)のデータを用いて解析した。昨年度までの予備解析の結果をふまえて、PHQ-9の第9項目目をアウトカムに遺族の希死念慮のリスク要因の同定、を行った。

C. 研究結果

計 17,237 名のデータを解析対象とした。本研究対象者において、直近 2 週間以内に希死念慮を有する割合は 11%で、うつ症状を有するものでは 42%だった。リスク要因としてうつの既往があること、患者療養中の家族の健康状態が良くないこと、死別に対する心の準備状況が十分でなかったことがあげられた。

D. 考察

先行研究など過去の知見同様に、がん患者遺族においても、うつは希死念慮に大きく関連することが明らかになった。うつの既往やうつハイリスク者には死別後の継続的なフォローが必要である。また、患者死別前の家族の健康状態への配慮や十分に心の準備ができるようなケアも希死念慮リスクを低めるかもしれない、

E. 結論

遺族の死別後の希死念慮の割合は 11%で、特にうつ症状を有する、または、うつの既往がある遺族には注意が必要である。本研究は現在、国際誌に投稿中である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Aoyama M, Miyashita M, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Akechi T. Predicting Models of Depression or Complicated Grief Among Bereaved Family Members of Patients with Cancer. *Psycho Oncology*. 2021;30(7):1151-59.

2. 学会発表

1. **青山真帆**, 宮下光令, 升川研人, 森田達也,

木澤義之，恒藤暁，志真泰夫，明智龍男.
がん患者遺族の希死念慮と関連要因. 第26
回日本緩和医療学会学術大会, 2021 June18-
19, 横浜 (Web とのハイブリッド開催).

2. **青山真帆**, 宮下光令, 升川研人, 森田達也,
木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 明智龍男.
がん患者遺族のうつ・複雑性悲嘆の予測モデ
ルの開発. 第26回日本緩和医療学会学術大
会, 2021 June18-19, 横浜 (Web とのハイブ

リッド開催).

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし